

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD12		
授業科目名	建築計画 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		
到達目標	建築計画の役割、建築設計に必要な基礎知識（寸法、用語、空間の構成等）が理解できること、また建築計画各論では各種建築物に関する基礎知識を修得し、計画手法を身につけることを目標とする。		
授業計画	第1回	建築計画について、単位と寸法	
	第2回	計画の進め方、各部の計画（扉、窓、階段等の考え方）	
	第3回	単位空間の計画	
	第4回	住居空間の計画	
	第5回	独立住宅の計画（平面計画と配置計画）	
	第6回	独立住宅の計画（諸室の計画）	
	第7回	独立住宅の計画（平面形式と事例分析）	
	第8回	集合住宅の計画（住棟形式と分類）	
	第9回	集合住宅の計画（計画上の要点）	
	第10回	集合住宅の計画（事例分析）	
	第11回	教育施設の計画（幼稚園・保育所）	
	第12回	教育施設の計画（小・中・高等学校等）	
	第13回	教育施設の計画（教育施設の事例分析）	
	第14回	図書館の計画	
	第15回	美術館の計画	
	第16回	劇場の計画	
	第17回	事務所の計画	
	第18回	ホテル等宿泊施設の計画	
	第19回	病院・診療所の計画	
	第20回	商業建築の計画	
	第21回	高齢者福祉施設等の計画	
	第22回	駐車・駐輪施設等の計画	
	第23回	スポーツ施設等の計画	
	第24回	その他各種建築物の計画	
	第25回	高齢者・障害者に配慮した計画（基本的な考え方と背景）	
	第26回	高齢者・障害者に配慮した計画（計画における留意事項）	
	第27回	環境に配慮した計画（サステナビリティとその背景）	
	第28回	環境に配慮した計画（コンバージョンとリノベーション）	
	第29回	建築計画の総括と今後の展望（複合建築物の事例分析）	
	第30回	建築計画の総括と今後の展望（防災計画）	
教科書	図説 やさしい建築計画（学芸出版社）		
成績評価方法	期末定期試験(60%)、レポート課題(20%)、授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD16		
授業科目名	一般構造		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。
到達目標	建築物を成立させている部位の構成や仕組みを理解し、建築を学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を習得する。また、建築技術、構造の全体像の把握に加え、建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を理解・習得する。
授業計画	第 1 回 〔建築構法の概要〕 建築構法の変遷、構造の分類、エレメントについて学ぶ
	第 2 回 〔木質構法〕 木質構法の特徴 各工法の特徴を学び、各種図面を理解する
	第 3 回 〔木質構法〕 木材 木材の組織と性質、製材規格、木質材料について学ぶ
	第 4 回 〔木質構法〕 軸組工法の構成 1 基礎・軸組・小屋組・壁について学ぶ
	第 5 回 〔木質構法〕 軸組工法の構成 2 床組・内外装・開口部・建具・階段について学ぶ
	第 6 回 〔木質構法〕 枠組壁・大断面集成材工法 各工法の構成と材料、接合について学ぶ
	第 7 回 〔鉄筋コンクリート構造〕 ラーメン構法 ラーメン構造の構成について学ぶ
	第 8 回 〔鉄筋コンクリート構造〕 その他の構法 各構造の構成と特徴を学ぶ
	第 9 回 〔鉄骨構造〕 特徴と材料 構造形式と特徴、材料と接合方法について学ぶ
	第10 回 〔鉄骨構造〕 架構・建方 架構の構成と建方の流れについて学ぶ
教科書	〔図解〕 建築の構造と構法 〈井上書院〉
成績評価方法	定期試験(80%) 及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD17		
授業科目名	建築材料学		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計事務所に勤務し、建築設計、コーディネートの実務経験をもつ教員が建築材料の歴史や概要を解説、また材料の特徴、特性について講義し、その使われ方、用途等を建築現場経験を基に解説する。
到達目標	建築の設計、空間コーディネートにおいて理解しておかなければならない建築材料と空間部位別仕上げ材などの種類、特徴、性能等について基礎的な知識を身につける。
授業計画	第1回 建築材料の歴史と環境 時代時代につくられ建築に使用されてきた材料の大まかな流れと現代の環境問題について学ぶ。 第2～3回 日本建築と木材 日本伝統工法と木材の種類、特徴、構造の基礎知識を学ぶ。 第4～5回 エンジニアリングウッド 資源の再利用から作り出された加工木材の種類、特徴を学ぶ。 第6～7回 コンクリート材料 建築の構造材料としてのコンクリートの原材料それぞれの特徴、性質を学ぶ。 第8～10回 コンクリートの性質と製品 コンクリートの性質、耐久性、強度についてと、コンクリート製品の種類と特徴について学ぶ。 第11～13回 鉄鋼 鉄の歴史 鉄の建築への使用の歴史、鋼材の特徴、性質、規格について学ぶ。 第14～16回 非鉄金属 建築に使われている鉄鋼以外の金属の種類、特徴、性質について学ぶ。 第17～19回 焼成品 タイル、レンガ、瓦、衛生陶器の種類、特徴、性質について学ぶ。 第20～21回 ガラスと石 ガラスの歴史、製法、特徴、性質と石の分類、特徴について学ぶ。 第22～23回 左官材料とボード類 左官の起源と定義、左官材料と仕上げの種類と、木材の板以外のボード類な種類や特徴を学ぶ。 第24～25回 その他の材料 新建材 プラスチック材料の種類、特徴と塗料、接着剤の種類について学ぶ。 第26～28回 部位別材料 内部仕上げの床・壁・天井の部位ごとの仕上げ材料特徴と施工について学ぶ。 第29～30回 性能別材料 要求される性能で防水、防火、耐火、断熱、防音、吸音材料について学ぶ。
教科書	図説 やさしい建築材料(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD27		
授業科目名	施工 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに施工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。
到達目標	工事工程に従って、技術的な工法の基礎的知識や専門用語を修得する。また、施工監理者として各工種ごとに考慮すべき要点や、工程に応じた工事手順の注意事項を理解することができる。
授業計画	第1回 施工計画・施工管理 施工者が始めに準備する各計画書・工程表・申請書・予算書等の内容詳細を説明、考慮事項を学習 第2回 工事準備・基礎工事 各種官庁への手続き及び工事前の各調査の内容を学習。基礎下地作りとなる地業工事の施工内容を学習 第3回 鉄筋 鉄筋の種類を理解し加工・組立の注意事項を確認、ピッチ・かぶり厚さ・開口部補強等の基本を学習 第4回 コンクリート コンクリートの各種混和材料の特徴や質重比の決まり、強度係数やスランプ値及び空気量の基礎を学習 第5回 鉄骨 鉄骨材の品質規格や断面形状・寸法種類を確認、工場作成及び現場接合で考慮すべき手順を学習 第6回 組積 補強コンクリートブロック工事の施工要領を学習、また、ブロック塀工事の注意事項や煉瓦工事の基礎を理解 第7回 木工事 木材各部名称と特徴を理解、変形・反りに応じた使い勝手を学習。木造継手・仕口の種類を理解する 第8回 左官 各下地の施工要領を学習、調合比率や塗り回数に応じた放置日数及びむら直しの時期等を講義 第9回 タイル工事・石工事 タイル材の種類とその性質を理解し、貼付け方の種類に応じた施工要領や下地塗りの区別を学習 第10回 塗装工事 塗料の種類とその特性を知り、種別に適応する素地種類を理解する。塗装面積に応じた各工法詳細を学習 第11回 建具工事・ガラス工事 開口部の種類・材料・保管法を解説、ガラスの規格・性能に合わせ適切な箇所に使用する重要性を学習 第12回 内装工事 床・壁・天井別で仕上工事の種類詳細を学習、下地納まりや接着剤の適切な使用方法などを理解する 第13回 断熱工事 断熱材料の種類・工法を理解し、各々施工上の注意事項と通気層・防湿層の重要性とその工法を学習 第14回 屋根工事 屋根形状の種類、材料に応じた勾配を理解し、屋根材に適応する下地処理及び仕上葺きの工法詳細を学習 第15回 契約・仕様 契約書の種類や記載事項の内容を理解、請負方式の違いや入札・発注形態を学習
教科書	専門士課程 建築施工（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD29		
授業科目名	コーディネート演習Ⅰ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。
到達目標	インテリア空間を構成する4要素【カラー・フォルム・マテリアル・テクスチャー】の分析ができる。また、居室空間の基本寸法を理解し平面図作成の基礎を身につける。相手に提案内容の魅力が伝わるような作品ボードの構成ができ、コンセプトが明確に伝わるようなプレゼンテーションができる。
授業計画	第1回 インテリアコーディネートの基本
	インテリアコーディネーターの具体的な業務内容の解説、空間構成の重要な4要素の分析方法を学習する
	第2回 抽象イメージボード作成
	抽象テーマに沿ったイメージ画像の収集、選別、用紙のレイアウトバランス、貼付作業の基礎を学ぶ
	第3回 インテリアイメージボード作成
	テーマを内装空間に絞り、インテリア空間をより明確に表現するイメージボードの作成方法を学習する
	第4回 外観イメージボード作成
	建築物の外観に焦点を当て、特徴を捉え統一感のある外観イメージボードの作成方法を学習する
	第5回 自室空間リフォーム
	自室のリフォームプランを取り組むに当たり、採寸方法説明、躯体や開口部の基礎理解、案出しを行う
	第6回 平面図作成
	採寸してきた自室寸法を基にして、手描きの平面図作成作業を行う
	第7回 リフォーム案検討
	どのようにリフォームするのか具体的な家具寸法などを参考にしてレイアウトし、いくつかの案を検討する
	第8回 リフォーム案作図作業
	決定したリフォーム案を実際に平面図への落とし込み作業を行う
	第9回 平面図着彩・ボードレイアウト
	完成した平面図をわかりやすくする為に家具やエレメント、躯体や開口部の着彩作業を行ったのち、ボードにレイアウトする
	第10回 作品プレゼン及び解説
	今までの作品を、コンセプトや工夫点などを説明しながら1人ずつプレゼンテーション及び講評を行う
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD39		
授業科目名	建築設備Ⅰ		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	設備設計事務所での勤務実績がある者が、その経験を生かし建築設備（給排水・冷暖房・換気・電気・防災）の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の重要性を説く
到達目標	建築物の設備を設計したり、工事を行う上で理解しておかなければならない設備の基礎的な知識を身につける。又、生活の中で設備を理解し、生活の向上の為にも役立てる。
授業計画	第1回 建物における設備の位置づけと設備の歴史を学ぶ
	第2回 室内環境と熱負荷を理解し、冷暖房能力の算定を学ぶ
	第3回 熱量計算と湿り空気線図の読み方を学ぶ
	第4回 空気調和方式と冷凍のしくみを学ぶ
	第5回 ダクト・配管・ポンプの決定方法と揚程計算を学ぶ
	第6回 換気方式と換気量の求め方を学ぶ
	第7回 給水・排水・給湯設備の水量算出方法を学ぶ
	第8回 衛生器具・消火設備の種類を学ぶ
	第9回 電気設備の概要・電力・受変電を学ぶ
	第10回 照明器具・防災器具・通信情報設備の種類と運用方法を学ぶ
	第11～12回 電気設備図の読み方・作図方法を学ぶ
	第13～15回 機械設計図の読み方・作図方法を学ぶ
教科書	学芸出版社「初めての建築設備」
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD11		
授業科目名	設計製図演習		
授業時間数	90		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。
到達目標	建築製図法の基本、基本図の理解と徹底を行い、木造建築物、鉄筋コンクリート造の各図面の模写を通して設計図を正しく読む力及び正しく描く技術を養う。
授業計画	第1回 製図用具の使い方・線種とその使い方
	製図用具(製図板等)の使い方、製図の基本である製図規格・図面の種類について学ぶ・様々な線種の描き分け方を学ぶ
	第2～5回 木造住宅 配置図兼平面図
	配置図と平面図の模写を通し、敷地の形状及び道路や建築物の位置関係、平面計画の手法について学ぶ
	第6～7回 木造住宅 1階床伏図
	床伏図の模写を通し、建築物の床の骨組みについて学ぶ
	第8～9回 木造住宅 小屋伏図
	小屋伏図の模写を通し、建築物の屋根の骨組みについて学ぶ
	第10～14回 木造住宅 矩計図
	矩計図の模写を通し、建築物の各部の高さ、断面寸法、各部材の種類などの詳細について学ぶ
	第15～16回 木造住宅 断面図
	矩計図の模写を通し、建築物と地盤面との関係、高さ方向の基準寸法について学ぶ
	第17～18回 木造住宅 立面図
	立面図の模写を通し、立面計画の手法、表現方法について学ぶ
	第19～23回 木造住宅 平面詳細図
	平面詳細図の模写を通し、平面詳細図の表現方法について学ぶ
	第24～26回 RC造集合住宅 平面詳細図
	平面詳細図の模写を通し、RC造の平面詳細図の表現方法について学ぶ
	第27～28回 RC造集合住宅 断面詳細図
	断面詳細図の模写を通し、RC造の構造及び詳細図について学ぶ
	第29～30回 RC造集合住宅 展開図
	断面詳細図の模写を通し、室内の各壁面の床から天井までの形状を立面として表す手法を学ぶ
教科書	新しい建築の製図(学芸出版社)
成績評価方法	各製図課題における作品評価点(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD13		
授業科目名	空間意匠論		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。
到達目標	毎回テーマを設けて、建築・インテリア空間を紹介し、基礎的な知識を身につける。様々な要因でどんな作品が創られて来たかを学習し、実際の作品を考察していく。また、国内外の最近作を通して、現代建築意匠がどうあるべきか考えながら、最終的に自分達でコンセプトを重視したスケッチ作品を制作できるようにする。
授業計画	第1～ 2回 都市の中における建築の位置付けと使命
	第3～ 4回 人と建築はどのような関係付けられるか？
	第5～ 6回 建築は風土によりどのような影響を受けるか？
	第7～ 10回 建築は自然とどのように付き合うべきか？
	第11～14回 用途が建築意匠に与える影響
	第15～17回 技術の進歩に伴う建築の変遷
	第18～20回 材料の変化に伴う建築の変遷
	第21～24回 建築の保存と再生
	第25～27回 内部と外部の境界は何が決定するのか？
	第28～29回 伝統・文化と建築の関係
	第30回 建築デザインとは何か？
	教科書
成績評価方法	テーマに沿った課題作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD14		
授業科目名	建築デザイン史		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築デザイン史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。
到達目標	各時代・国ごとに実際の建築・インテリア写真を通して考察し、その特徴を深く理解しながら、現代に至る建築意匠の変遷を理解する。日本・西洋建築史を通して得た知識を建築設計するときの意匠に関する基礎的な知識として応用できるようにする。
授業計画	西洋建築史 第1～2回 古代オリエント・エジプト建築 第3～4回 ギリシャ・ローマ建築 第5～6回 ロマネスク・ゴシック建築 第7～8回 ルネッサンス・バロック建築 第9～10回 ロココ・リヴァイヴァル建築 近代建築史 第11～13回 世紀末建築から近代建築運動へ 第14～16回 第二次世界大戦後の建築 第17～18回 ポストモダニズムからデコンストラクションへ 第19～20回 21世紀の現代デザインを考える 日本建築史 第21～23回 古代から中世へ；神社・仏教建築 第24～25回 中世から近世へ；書院造・数寄屋建築 第26～27回 明治・大正・昭和初期の建築 第28～29回 第二次世界大戦後の日本建築の発展 総括 第30回 これからの建築デザイン
教科書	コンパクト版 建築史 日本・西洋 彰国社
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD15		
授業科目名	構造力学Ⅰ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業の内容	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。
到達目標	建築物を設計する上で理解しておかなければならない構造力学の基礎的な知識を身につける。また、反力、応力や部材の変形等についての理解を深め、基礎的な解法を修得する。
授業計画	第1回 構造力学に必要な算術計算 分数、平方根、文字式、方程式、相似形等構造力学に必要な算術計算の復習
	第2～4回 力の基礎 力の表現方法、効果、単位等の基礎から、モーメント、合力、分布荷重等について学ぶ
	第5回 力の釣り合い 力が釣り合うということ、釣り合い条件式について学ぶ
	第6～9回 反力計算 支点の種類・特徴、単純梁・片持ち梁・張り出し梁・ラーメンの各々における反力計算について学ぶ
	第10～12回 部材に生じる力（基礎） 部材に生じる力の種類と特徴、単純梁・片持ち梁での応力の求め方を学ぶ
	第13～16回 部材に生じる力（実践） 応力図について理解し、単純梁・片持ち梁・ラーメンの各々における応力計算について学ぶ
	第17～18回 トラス トラスの基礎を理解し、節点法・切断法について学ぶ
	第19～20回 断面に関する数量 部材断面の図心・断面2次モーメント・断面係数の求め方を学ぶ
	第21～26回 応力度 軸応力度、曲げ応力度、せん断応力度、許容応力度、許容曲げモーメントについて理解し、その求め方を学ぶ
	第27回 座屈 座屈について理解し、座屈荷重の求め方を学ぶ
	第28回 たわみ たわみ及びたわみ角について理解し、たわみの求め方を学ぶ
	第29回 不静定構造の基礎 静定・不静定について理解し、不静定構造の基礎的解法を学ぶ
	第30回 塑性解析の基礎 構造物の崩壊について理解し、全塑性モーメント・崩壊荷重・保有水平耐力について学ぶ
教科書	図説やさしい構造力学（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD18		
授業科目名	色彩学		
授業時間数	15		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。
到達目標	・色彩学の意義や色彩理論を理解し、配色技法及び色彩感覚を身に付ける。 ・色を伝える方法や心理効果、配色技法を学ぶことで建築環境の安全・美化・デザイン性への効果、建築空間イメージへの想定などを身に付ける。
授業計画	第1回 身の回りの色の見え方・光と色1
	第2回 身の回りの色の見え方・光と色2
	第3回 身の回りの色の見え方・光と色3
	第4回 色の表示1
	第5回 色の表示2
	第6回～7回 色彩調和(調和・配色技法)
	第8回 配色イメージ
	第9回 ビジュアルデザインと色彩
	第10回 ファッションと色彩
	第11回 プロダクトと色彩
	第12回～第13回 インテリアと色彩
	第14回～第15回 エクステリア環境と色彩
教科書	文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト2級編
成績評価方法	定期試験(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD19		
授業科目名	色彩学演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通し体験的に学ぶ。 課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。			
到達目標	・色彩理論を理解し、実践的な課題制作での配色や色彩調和理論の活用方法を修得する。 ・様々な画材を使用し着彩を行うことで、幅広い表現技法を習得し、プレゼンテーションに役立つ技術を修得する。			
授業計画	第1回	視覚効果について（ポスターカラー使用）		
	第2回	PCCS(色相とトーンによる色の表示方法)について（ポスターカラー使用）		
	第3～4回	色彩調和について（ポスターカラー使用）		
	第5～6回	インテリアパースの着彩（色鉛筆使用）		
	第7～9回	戸建住宅外観・インテリアの色彩計画及び着彩（コピック使用）		
	第10～12回	インテリアパースの色彩計画及び着彩（コピック・色鉛筆使用）		
	第13～15回	エクステリア・外観パースの色彩計画及び着彩（コピック・色鉛筆使用）		
	教科書	担当教員において配布資料制作		
	成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30％）により評価する。		
備考				

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD20		
授業科目名	C A D 演習A		
授業時間数	135		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用C A D（jwcad）を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。
到達目標	コンピュータ操作に必要な知識を習得し、同時にトラブル等に対する対応力も高める。 C A D製図に必要なコマンド操作を理解・修得し、作図中に最も適切なコマンド選択ができる能力を養う。縮尺に応じた表現、出力線種の選択・変更等を適切に行い、成果物提出までの一連の作業を理解・修得する。
授業計画	第1回 コンピュータの概要、基本操作
	第2回 C A Dの概要、基本操作（U I、環境設定）
	第3～7回 基本操作（基本コマンド）
	第8回 基本操作（レイヤの概念、操作）
	第9～11回 基本操作（ショートカット、クロックメニュー操作）
	第12～15回 小課題による作図（建築CAD検定2級問題程度）
	第16～17回 R C造(3階建)配置・平面図（1/100）
	第18～19回 R C造(3階建)断面図（1/100）
	第20回 R C造(3階建)立面図（1/100）
	第21～22回 R C造(3階建)図面の変更・修正方法（1/100）
	第25～28回 R C造(3階建)平面詳細図（1/50）
	第29～31回 R C造(3階建)断面詳細図（1/50）
	第32～33回 木造(2階建)配置・平面図（1/100）
	第34回 木造(2階建)断面図（1/100）
	第35回 木造(2階建)立面図（1/100）
	第36～37回 木造矩計図（1/50）
	第38～39回 木造平面詳細図（1/50）
	第40～41回 配置図(1/100)、付近見取図（1/300）
	第42～43回 パース、立体の作成、着彩
	第44～45回 日影図、天空図の作成
教科書	JW_CAD建築製図（学芸出版社）
成績評価方法	提出課題による評価(70%)、授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD21		
授業科目名	パースペクティブ演習		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	－		

シラバス

授業内容	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。
到達目標	フリーハンド・スケッチなどに有効な簡略図法なども含め、実際の設計業務における検討やプレゼンテーションに役立つ技術を修得する。また与えられた平面図・立面図から立体図形として空間を立ち上げるなど、空間認識力を養う。
授業計画	第1回 透視図の原理と用語・1消点基本図法
	第2回 1消点図法(室内)
	第3回 2消点基本図法
	第4回 2消点図法(建築外観)
	第5回 3消点基本図法
	第6回 3消点図法(建築鳥瞰)
	第7回 軸測投影法
	第8回 簡略1消点図法(室内)
	第9～10回 簡略2消点図法(K線法・建築外観)
	第11～12回 簡略2消点図法(相似法・建築外観)
	第13～14回 簡略3消点図法(建築外観)
	第15回 スケッチパースへの応用
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD22		
授業科目名	建築造形演習		
授業時間数	90		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。 着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から 造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。
到達目標	建築意匠・建築設計の基礎として様々な表現技法を修得するとともに、美的表現の追求、多様性 への理解を深める
授業計画	第1-5回 [基礎造形]
	第6-8回 [ボリュームスタディ]
	第9-10回 [模型用図面の作成]
	第11-16回 [演習：フォーリー]
	第17-22回 [演習：基本住宅模型] □
	第23-30回 [演習：自由課題]
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	製作物(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD23		
授業科目名	リフォーム概論		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計の仕事に従事していた教員が、その見識や経験を活かして講義をする。住宅のリフォームについての基礎知識や、事例による具体的実践方法を解説し、法規や設備、住宅性能などの様々な観点から考察しながら、より良い住生活を実現するための方法を修得する。
到達目標	住宅リフォームを行うにあたり必要な基礎知識の修得を目的とする。単に老朽化への対処だけではなく、現代のリフォームの動向や住宅性能の要点などを理解し、変化する住まいへの価値観についてみずから考察するための実力を養う。
授業計画	第1回 住宅・住生活の変遷について
	第2回 住宅リフォームの計画について
	第3回 住宅リフォームの関連法規
	第4回 住宅性能に関する知識①
	第5回 住宅性能に関する知識②
	第6回 住宅性能に関する知識③
	第7回 リフォーム実践の手順について
	第8回 事例と解説①
	第9回 事例と解説②
	第10回 事例と解説③、まとめ
教科書	住宅リフォーム計画(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD24		
授業科目名	住宅計画論		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画Ⅰで履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。
到達目標	住宅設計者に求められる空間構成への理解やそれに伴う寸法・構造等の知識を身につける。さらに建築基準法や積算の基礎を理解し、最終的に建築主からヒアリングした内容をもとに住宅設計行為の全体をマネジメントできる力を修得することを目標とする。
授業計画	第1回 住まいの成り立ち、現代の住宅、空間を構成するもの
	第2回 快適な住環境をつくる工夫
	第3回 単位空間と計画のポイント①
	第4回 単位空間と計画のポイント②
	第5回 バリアフリーと部屋の寸法
	第6回 木造の仕組み
	第7回 プランニングについて
	第8回 プランニング時の確認事項①
	第9回 プランニング時の確認事項②
	第10回 プランニング時の確認事項（建築費用）、まとめ
教科書	学芸出版社「住まいの建築計画」
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD25		
授業科目名	社会研究 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。
到達目標	就職活動に行なう上で必要とされる知識やマナー(礼儀作法)、コミュニケーションを習得し、前向きに取り組む力を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション(就職対策について)
	第2回 職業理解①(職種について理解する)
	第3回 職業理解②(業界研究・企業研究のやり方について)
	第4回 職業理解③(仕事内容について理解する)
	第5回 コミュニケーションの技法①(傾聴 聞き方)
	第6回 コミュニケーションの技法②(伝え方：自己紹介文)
	第7回 コミュニケーションの技法③(実践)
	第8回 自己分析① 自分のこれまでを考えてみる(長所と短所 リフレーミングのワーク)
	第9回 自己分析② 自分のこれからを考えてみる(はたかちカードのワーク)
	第10回 自己分析③ 役割と適性(好きなこと得意なことを活かして働く)
	第11回 自己分析④ 自己PRを作成する
	第12回 履歴書①(履歴書やESの書き方について)
	第13回 履歴書②(履歴書の作成(氏名・住所・学歴・職歴の書き方))
	第14回 履歴書③(履歴書の作成(志望動機、自己PR、趣味・特技の書き方))
	第15回 面接対策①(面接試験に向けての対策、面接の方法、準備の方法)
	第16回 面接対策②(実践：個人面接)
	第17回 面接対策③(実践：個人面接)
	第18回 面接対策④(実践：WEB面接)
	第19回 面接対策⑤(実践：WEB面接)
	第20回 面接対策⑥(実践：WEB面接)
	第21回 面接対策⑦(実践：集団面接)
	第22回 面接対策⑧(実践：集団面接)
	第23回 面接対策⑨(実践：集団面接)
	第24回 筆記試験対策①(一般常識)
	第25回 筆記試験対策②(一般常識)
	第26回 筆記試験対策③(SPI)
	第27回 筆記試験対策④(SPI)
	第28回 筆記試験対策⑤(時事問題)
	第29回 筆記試験対策⑥(時事問題)
	第30回 文書作成(お礼状の書き方)
教科書	担当教員において配布資料作成
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD26		
授業科目名	グラフィック演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。
到達目標	実務において、クライアントへのプレゼンテーションに適した技術や手法などの基礎的な知識を身に付け、的確な企画・立案の技術を捉えるための力を養う。
授業計画	第1回～第2回 アプリケーションソフトウェアの操作(Illustrator)
	第3回～第4回 アプリケーションソフトウェアの操作(Photoshop)
	第5回 ロゴデザイン(アイデアスケッチ・CG制作)
	第6回～7回 DTPの基礎知識とオペレーション技術1(写真配置やテキストレイアウトの技術)
	第8回～10回 DTPの基礎知識とオペレーション技術2(建築図面のトレース・彩色の基礎技術)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各課題における作品評価点(80%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD28		
授業科目名	デッサン		
授業時間数	75		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	－		

シラバス

授業内容	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。
到達目標	この演習の最終的な目的は、身近にある様々な道具を使用して、フリーハンドのドローイングにより、「無形のイメージ(アイデア)」を「有形の形」へと導く過程を習得する。
授業計画	第1回 必要な道具の説明と建築におけるデッサンの必要性について
	第2回 鉛筆の使い方と様々な線の表現
	第3回 調子の表現方法
	第4回～5回 立体の捉え方、単純な形(立方体、球、円柱)
	第6回～8回 立方体デッサン
	第9回～11回 球体デッサン
	第12回～13回 質感表現(金属、ガラス、布)
	第14回～15回 陰影法による空間表現
	第16回 クロッキー表現、人間工学
	第17回～18回 遠近法、比率
	第19回～21回 エスキース表現、建築添景デッサン
	第22回～24回 建築物デッサン
	第25回 プレゼンテーション
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各デッサン課題における作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD30		
授業科目名	家具デザイン演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	日常生活に於ける家具のあり方、及び家具デザインの可能性を考察し、新しい家具の提案演習を行なう。作品制作におけるデザインの着想や構想、デザインの吟味、製図やパースによるの表現方法を学習する。
到達目標	インテリアの基礎知識を基盤とし、空間や物のあり方の考察力を磨き、豊かな発想力を培う。作品制作を通して、デザイン力や表現力の向上、完成度の高いプレゼンテーション能力の習得を目指す。
授業計画	第1回 家具デザインの考察、家具製図(家具三面図)
	第2回 デザイン課題説明、資料収集、調査・研究
	第3～4回 コンセプト立案、デザインの検討
	第5～6回 デザインの検討、作図
	第7回 デザインの調整、プレゼンテーション資料作成
	第8回 中間プレゼンテーション・講評
	第9回 デザイン及びプレゼンテーション資料の修正
	第10回 最終プレゼンテーション
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各課題における作品評価点(60%)、授業参加への積極性を重視する平常点(20%)、出席点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD31		
授業科目名	総合デザイン論		
授業時間数	15		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。
到達目標	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広い発想力を養う。
授業計画	第1回 広告写真について
	第2回 ファッションスタイリングについて
	第3回 サインについて
	第4回 インターネットリテラシーについて
	第5回 フォトショップについて
	第6回 建築とデザインについて
	第7回 映像について
	第8回 雑貨デザインとブランディングについて
	第9回 彫刻について
	第10回 アールブリュッドとデザインについて
	第11回 雑貨デザインとブランディングについて
	第12回 ファッションブランドについて
	第13回 デザインとアートについて
	第14回 伝統工芸とデザインについて
	第15回 インテリアデザインについて
教科書	担当教員において配布資料作成
成績評価方法	受講レポート(70%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD32		
授業科目名	ビジネスマナー		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。
到達目標	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニケーションを向上し、社会人として円滑な人間関係を築くための基礎力を身に付ける。
授業計画	第1回 ビジネスマナーとは / 社会人としての心構え
	第2回 基本動作
	第3回 言葉遣いの基本①
	第4回 言葉遣いの基本②
	第5回 電話対応①
	第6回 電話対応②
	第7回 面接対応①
	第8回 面接対応②
	第9回 会社訪問時のマナー
	第10回 ビジネスマナー基礎①
	第11回 ビジネスマナー基礎②
	第12回 インターンに向けて
	第13回 社交のマナー①
	第14回 社交のマナー②
	第15回 まとめ
教科書	担当教員による配布資料作成
成績評価方法	テーマに沿った演習評価(70%)及び、授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD33		
授業科目名	建築設計A		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことが出来るのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。
到達目標	既成概念に対して様々な問題提起を行い、エスキスを重ねることで建築家としての空間構想力を養う。 設計行為を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。 建築の空間（平・立・断面）に対する簡単な提案ができる 設計意図を分かり易く説明するために必要な図面を描くことができる
授業計画	第1～2回 課題説明・資料収集・敷地環境等条件の整理
	第3～4回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング）
	第5～6回 エスキス2（ボリュームスタディ・基本計画の策定）
	第7～8回 エスキス3（平面・立面・断面図(1/100)の検討）
	第9～12回 平面・立面・断面図(1/100)の作成
	第13～14回 模型の作成
	第15回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD34		
授業科目名	住宅設計A		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習を行う。具体的には延床25㎡の狭小平屋住宅の設計を課題とし、「住宅」という既成概念に対して様々な問題提起を行いながらエスキスを重ね空間構想力を養い、必要な各設計図書の製作を行う。		
到達目標	基本的な空間モジュールや人間の行動特性を理解した上で動線計画ができ、現場で要求される設計図書【平面図・立面図・断面図・配線図・透視図・仕様書】を基礎をおさえ作成することができる。また、課題製作を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。		
授業計画	第1～2回	解説・条件設定・プランニング	
	第3～4回	プランニングエスキス	
	第5～8回	一般平面図（1/50）検討及び作成	
	第9～11回	立・断面図（1/50）検討及び作成	
	第12～14回	配線図・仕様書・透視図検討及び作成	
	第15回	製図仕上・プレゼンテーション・講評	
	教科書	特に指定しない	
成績評価方法	演習作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD35		
授業科目名	商業施設設計A		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員が、その経験を生かして商業施設の計画、デザイン、設計について指導する。 主に商業施設建築を題材とした設計演習を行なう。住施設と比較し商業施設に求められる性質・機能を理解し、商業施設建築の発想・企画立案の基礎を学習する。			
到達目標	商業施設建築の機能についての理解、企画立案にあたっての基礎的な知識を身につける。 また、作品製作を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を修得する。			
授業計画	第1～2回	課題説明・資料収集・条件設定		
	第3～4回	コンセプト・基本計画策定		
	第5～8回	ゾーニング、平面図(1/100)の作成及び検討		
	第9～11回	立・断面図・展開図(1/100)の作成及び検討		
	第12～14回	詳細部検討・透視図作成・製図仕上		
	第15回	プレゼンテーション・講評		
	教科書	特に指定しない		
	成績評価方法	各課題における作品評価点（70%） および授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。		
備考				

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD36		
授業科目名	建築設計A		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことが出来るのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。
到達目標	既成概念に対して様々な問題提起を行い、エスキスを重ねることで建築家としての空間構想力を養う。設計行為を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。建築の空間（平・立・断面）に対する簡単な提案ができる 設計意図を分かり易く説明するために必要な図面を描くことができる
授業計画	第1～2回 課題説明・資料収集・敷地環境等条件の整理
	第3～4回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング）
	第5～6回 エスキス2（ボリュームスタディ・基本計画の策定）
	第7～8回 エスキス3（平面・立面・断面図(1/100)の検討）
	第9～12回 平面・立面・断面図(1/100)の作成
	第13～14回 模型の作成
	第15回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD38		
授業科目名	福祉住環境計画		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	
到達目標	福祉住環境コーディネーター2級の取得を目標とする。高齢による疾患や障害について正しく理解し、人それぞれの住環境の現状の問題点を整理し、改善策を提案する力を修得する。また、社会の変化による支援制度や施策の変遷を理解し、将来に向けた福祉住環境のあり方について考察を深める。	
授業計画	第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境	
	第2回 障害者を取り巻く社会状況と住環境	
	第3回 障害のとらえ方、リハビリテーションと自立支援、高齢者・障害者の心身の特性	
	第4回 高齢者に多い疾患について	
	第5回 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備	
	第6回 障害別にみた福祉住環境整備	
	第8回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方	
	第9回 生活行為別福祉住環境整備の手法	
	第10回 在宅生活における福祉用具の活用	
	教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 公式テキスト 2級 [改訂5版]
	成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考		

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD40		
授業科目名	建築法規		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。
到達目標	建築物が設計から建設までの段階で様々な建築基準法の規定を受けているということを認識した上で、建築基準法令の読み方や解釈の仕方を身に付け、建築基準法の内容と趣旨を正確に理解するための力を修得する。
授業計画	第1回 概要・建築基準法の基本定義
	第2回 建築基準法に関わる手続き
	第3回 建築基準法の一部が適用されない建築物
	第4回 敷地・面積・高さについて
	第5回 採光・換気に関する基準
	第6回 構造・設備に関する基準
	第7回 都市計画区域・道路の定義
	第8回 用途地域による建築制限
	第9回 面積・高さの制限
	第10回 防火地域・準防火地域の建築制限
	第11回 防火制限・内装制限
	第12回 避難施設
	第13回 構造強度
	第14回 基準法のその他の規定
	第15回 その他の法律
教科書	図説 やさしい建築法規(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD41		
授業科目名	C A D 演習B		
授業時間数	135		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。 視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。
到達目標	・課題建築図面を読み取り、BIM対応の3Dモデリングを制作する技術を修得する。 ・1つのファイルで2Dと3Dの切り替えをスムーズに行えるハイブリッド構造をもった図面描画方法を修得する。 ・グラフィックソフト（Illustrator）との連携の方法及び様々なレンダリング方法を駆使し、画像処理ソフト（photoshop）でのレタッチを学び、よりリアルなレンダリング画像を制作する技術を修得する。
授業計画	第1～16回 VectorWorksの基本操作
	第17～20回 2D図面演習（平面図 1/100）
	第21～22回 2D図面演習（立面図 1/100）
	第23～25回 プレゼンテーションボード作成
	第26～28回 2D図面演習（平面図 1/50）
	第29～32回 2D図面演習（矩計図 1/30）
	第33～35回 3Dモデリング演習（シンボル家具）
	第36回 3Dモデリング演習（壁の立ち上げ方、開口部の入れ方）
	第37～38回 3Dモデリング演習（光源の入れ方、光の調整方法）
	第39～40回 3Dモデリング演習（ビューポートの活用方法）
	第40～42回 3Dモデリング演習（レンダリング種類の説明、応用）
	第43～45回 3Dモデリング演習（他ソフトと連携し、レンダリングパースの制作）
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD42		
授業科目名	生成AI活用演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	この授業では、生成AIの基礎から実践的な活用までを学びます。学生は生成AIの概念や仕組みを理解し、テキスト生成、画像生成、データ分析など、具体的な応用方法を習得します。最終的には、実際の課題に生成AIを活用して解決策を提案できるスキルを身に付けます。初心者でも理解できるよう、基礎から段階的に発展的な内容へと進みます。
到達目標	全10回の授業を通して、学生は生成AIに関する基本的な知識を身に付けることが目標です。また、生成AIツールを適切に使いこなせるようになり、実際の課題に対して創造的かつ効果的な解決策を提案できるレベルに達することを目指します。
授業計画	第1回：生成AIの概要と基本概念 生成AIとは何か、基本的な仕組みやその歴史について解説。 現在のAI技術の全体像を理解する。 演習：簡単な生成AIツールの紹介と初体験。 第2回：生成AIの技術的基礎 AIの構成要素（ニューラルネットワーク、機械学習、自然言語処理）について学ぶ。 生成モデル（GPT、GANなど）の基本を学習。 演習：簡単なAIモデルの出力を観察し、理解を深める。 第3回：テキスト生成AIの実践① テキスト生成AI（例：GPTシリーズ）の仕組みを学び、応用例を紹介。 演習：文章生成の実践、簡単な課題に対してテキスト生成を行う。 第4回：テキスト生成AIの実践② テキスト生成AIを用いた高度な応用（自動要約、翻訳など）を学ぶ。 演習：クリエイティブな文章作成や内容要約の実践。 第5回：画像生成AIの実践① 画像生成AI（例：DALL-E、Midjourney）の基礎。 演習：プロンプトを用いて様々な画像を生成し、実際の制作プロセスを体験。 第6回：画像生成AIの実践② 生成した画像の活用方法（デザイン、広告、エンターテインメント）について学ぶ。 演習：画像生成に加え、生成物の改善や修正を行う。 第7回：音声・動画生成AIの基礎 音声生成や動画生成技術の基礎を学ぶ。 演習：音声合成や簡単な動画生成を体験。 第8回：生成AIとデータ分析 生成AIを用いたデータ分析手法を学ぶ（テキストマイニング、データ生成）。 演習：生成AIを使ってデータセットを分析し、視覚化する。 第9回：生成AIの倫理と課題 生成AIの倫理的問題（著作権、偽情報生成など）について学ぶ。 第10回：生成AIを使ったプロジェクト発表 提示された課題に対して、各自が生成AIを活用し解決案を作成する。
教科書	特になし
成績評価方法	演習課題作品点(50%)及び授業・制作参加への積極性を重視する平常点(50%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD43		
授業科目名	卒業制作C		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	卒業制作において最終段階となるプレゼンテーションに向け、学生各自のコンセプトを適切に表現するために必要となる図面や模型、スライド等を教員と相談の上決定し、提出に向けた工程計画を行う。
到達目標	・プレゼンテーションを想定し、効果のある必要な表現を吟味・選択できる能力を修得する。 ・制作完了に向けた効率的な工程を計画し、自ら進捗管理できる能力を修得する。
授業計画	第1回 内容説明・資料整理
	第2回 プレゼンテーションストーリーの立案
	第3回 プレゼンテーションストーリーの検討
	第4回 プレゼンテーションストーリーの決定
	第5回 表現手法の検討
	第6回 表現手法の決定
	第7回 プレゼンテーションボードの検討
	第8回 ボードレイアウトの決定
	第9回 必要図面・模型等の詳細検討
	第10回 工程表・進捗管理表の作成
教科書	特になし
成績評価方法	第4, 6, 8, 10回に求める成果物(70%)、および授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD44		
授業科目名	ビジネス概論		
授業時間数	15		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	・ビジネスの構造・仕組み、利益構造の基礎的な知識を学習する ・経営あるいはプロジェクトを成功させるために必要なプロセスを体系的に学ぶ ・経営コンサルタントである中小企業診断士が具体例を交えて指導
到達目標	・これからのビジネス社会で活躍するための基礎知識を身につける ・企業活動の特徴について理解を深める
授業計画	第 1 回 ビジネスの基本について
	第 2 回 売上と利益はどちらが大事なのか？
	第 3 回 利益の種類～営業利益・経常利益
	第 4 回 営業利益を増やすためには？～売上原価・販売費及び一般管理費
	第 5 回 儲けを増やす工夫～小売業
	第 6 回 儲けを増やす工夫～飲食業
	第 7 回 ビジネスプランの基本～計画書作成の重要性
	第 8 回 ビジネスプランの立て方
	第 9 回 アイデアの整理
	第 1 0 回 ビジネスモデルの検討～3C分析
	第 1 1 回 売上予測の方法
	第 1 2 回 事業収支計画の考え方
	第 1 3 回 税金やビジネスに必要な手続きのお話
	第 1 4 回 今後のビジネス展望について①
	第 1 5 回 今後のビジネス展望について②
教科書	創業の手引(日本政策金融公庫)ほか
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD45		
授業科目名	社会研究Ⅱ		
授業時間数	15		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	将来の職業への関心を更に深め、働くことの意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになることを目的とする。
到達目標	自分の将来像を具体的にイメージできるようになる為に、職業観、将来設計能力を養い、人間力、社会人基礎力を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション(就活年次生としての心構え、就活スケジュール)
	第2回 インターンシップ(選考)について
	第3回 筆記試験対策⑤(時事問題)
	第4回 筆記試験対策⑥(時事問題)
	第6回 プレゼンテーション①(自信を持って伝える)
	第7回 プレゼンテーション②(魅力あるプレゼンの仕方)
	第8回 プレゼンテーション③(効果的な文書の作り方)
	第9回 社会人の基礎知識①(労働条件・賃金)
	第10回 社会人の基礎知識②(社会保険制度)
	第11回 社会人の基礎知識③(解雇と退職)
	第12回 社会人の基礎知識④(関係法令)
	第13回 ライフキャリアプランニング(人生とお金の関係)
	第14回 人間関係とコミュニケーション
	第15回 早期研修について
教科書	担当教員による配布資料作成
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD46		
授業科目名	卒業制作B		
授業時間数	225		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、設備、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築領域に関する芸術・工学に亘る専門的な知識や技術等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。
到達目標	・これまでの建築領域における技術の進歩や特徴を理解し、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。
授業計画	前期(第1週～第15週)
	第1週 卒業制作概要説明及び制作スケジュールの設定
	第2週～3週 事前調査・制作テーマの方向性の検討
	第4週～6週 本調査・制作テーマ・コンセプトの決定
	第7週～8週 敷地等諸条件の設定、計画概要書の作成
	第9週～14週 基本計画・設計
	第15週 中間発表・講評
	後期(第15週～第30週)
	第16週～26週 実施設計図書作成
	第27週～29週 模型作成
	第30週 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	卒業制作における作品評価点(70%)、プレゼンテーション(10%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD47		
授業科目名	建築設計B		
授業時間数	105		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。
到達目標	建築計画Ⅰで履修した内容を基に、各種建築物設計に必要な検討事項をリストアップし、設計条件として整理できる能力を身につける。複雑に絡み合う様々なプログラムを論理立てて整理し、秩序を持った空間提案ができる能力を身につける。高齢者等様々な人々の身体特性を理解し、建築が障害を作らぬよう配慮できる意識を身につける。建築と社会との関わりやその意義を理解する。
授業計画	第1回 課題説明(集合住宅)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第2,3回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第4,5回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第6,7回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第8,9,10回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第11回 プレゼンテーション・講評 第12回 課題説明(高齢者福祉施設)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第13,14回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第15,16回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第17,18回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第19,20,21回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第22回 プレゼンテーション・講評 第23回 課題説明(美術館)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第24,25回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第26,27,28回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第29,30,31回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第32,33,34回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第35回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%) 授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD48		
授業科目名	構造力学Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	構造力学Ⅰで学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせて解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。			
到達目標	基礎知識を利用した不静定構造物の応力計算方法を修得する。また、偏心荷重を受ける部材の応力を求めるなどの応用問題の解法を身につける。構造計画と構造計算のプロセスの概要を理解する。			
授業計画	第 1 回	構造物の静定・不静定		
	第 2 回	静定構造物の応力		
	第 3 ～ 4 回	断面の性質		
	第 5 ～ 6 回	応力度		
	第 7 ～ 8 回	不静定構造物の応力		
	第 9 ～ 1 0 回	構造設計		
	教科書	図解やさしい構造力学（学芸出版社）		
	成績評価方法	定期試験（８０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（２０％）により評価する。		
備考				

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD49		
授業科目名	建築計画Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	－		

シラバス

授業内容	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム2回で構成し、5課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系2課題)を課す。
到達目標	与えられた課題敷地に対し、必要条件を的確に整理し、建築計画Ⅰで修得した計画手法を理解し、基本計画することができる。
授業計画	第1回 木造住居系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第2回 木造住居系課題(基本計画・設計図制作)
	第3回 RC造住居系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第4回 RC造住居系課題(基本計画・設計図制作)
	第5回 公共建築系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第6回 公共建築系課題(基本計画・設計図制作)
	第7回 商業建築系課題A(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第8回 商業建築系課題A(基本計画・設計図制作)
	第9回 商業建築系課題B(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第10回 商業建築系課題B(基本計画・設計図制作)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD50		
授業科目名	建築環境工学		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計の仕事に従事していた教員が、その見識や経験を活かして講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。
到達目標	各单元ごとに基礎知識を習得した後にテストを行い、目標の達成度合いを確認する。特に熱環境と光環境については、熱移動の基本事項、温熱環境、日射・日照、採光、照明などについて説明し、建築物の室内および周辺環境を計画するための基礎知識を修得させる。
授業計画	第1回 建築環境の概要・気候
	第2～ 3回 伝熱と結露
	第4～ 5回 換気と通風
	第6～ 7回 日射・日照と採光
	第8回 照明と色彩
	第9回 音環境
	第10回 都市環境
教科書	初めての建築環境(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD51		
授業科目名	木構造計画演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等の実践的な演習の指導を行う。
到達目標	木構造の意匠と構造とのバランスを理解し、建築基準法に基づく耐力壁の配置や接合金物の選定についての知識・手法を習得する。
授業計画	第 1 回 [木質構法の特徴]
	第 2-3 回 [耐力壁のバランス]
	第 4-5 回 [地震力]
	第 6-7 回 [風圧力]
	第 8-9回 [軸組検討]
	第10回 [金物検討]
教科書	[図解]建築の構造と構法 <井上書院>
成績評価方法	課題<耐力壁のバランス・地震力・風圧力・金物選定>の検討成果と精度について採点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD52		
授業科目名	積算Ⅰ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、建築数量積算基準に基づき、各工種ごとに材料算出方法を講義する。概要の解説を行った後に、電卓やスケールを用いて、教科書の図面及び仕様を確認しながら部材積算を行い、基礎手順を解説。工種ごとの単位や所要数量の違いを理解し、材料ごとに正確な拾い出しが行えるよう講義を行う。		
到達目標	工事費の構成及び工程別の積算の流れを理解する。建築材料を各工種ごとに正確な拾い出し作業ができる力を身につける。項目ごとに拾い出し単位の違いや、割増率の違いを理解する。適切に電卓やスケールを使用出来る。		
授業計画	第１回	積算の種類・数量計算の流れ	
	第２回	土工・地業の積算	
	第３回	鉄筋・型枠の積算	
	第４回	コンクリート数量の積算	
	第５回	鉄骨の積算	
	第６回	木造の積算	
	第７回	新建材の積算	
	第８回	左官・タイルの積算	
	第９回	塗装・建具の積算	
	第１０回	板金・防水・雑工事の積算	
	教科書	初めての建築積算（学芸出版社）	
成績評価方法	定期試験（８０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（２０％）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD53		
授業科目名	住宅設計B		
授業時間数	105		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習の指導を行う。具体的には木造二階建住宅設計を主な課題とし、家族構成や敷地条件を設定し基本計画・基本設計から実施設計へと段階を踏みながら設計を進め、最終的にはインテリアコーディネーションと規定の家具設計までを含めた実施設計図書の作成を行う。また、RCマンションの住宅改装や住宅LDKのリフォームの課題も取り組み、設定した躯体内を変更計画・設計する要領も学習する。
到達目標	設計者として必要な法的知識・意匠を考慮し、段階的に詳細で正確な実施設計図書一式【配置図・平面図・立面図・断面図・展開図及び造作家具詳細図・透視図・配線図・仕様書】を作成することができる。また、明確なコンセプトの設定を行い、施主へのプレゼンテーションやヒヤリングの能力を修得する。
授業計画	第1回 【木造二階建住宅設計】仕様テーマ決定 第2～5回 【木造二階建住宅設計】基本計画 エスキス及び検討 第6～9回 【木造二階建住宅設計】基本計画～設計製図 <平面図・立面図・断面図(1/100)> 第10～12回 【木造二階建住宅設計】実施設計 <断面詳細図(1/50)・配線図(1/100)> 第13～16回 【木造二階建住宅設計】仕様書・展開図・造作家具詳細図 第17～19回【木造二階建住宅設計】照明プラン作成 第20～23回 【木造二階建住宅設計】透視図作成・設計図書一式仕上げ 第24回 【木造二階建住宅設計】プレゼンテーション・講評 第25～28回【RCマンション住宅改装】エスキス、平面図・断面図・透視図 第29～34回【RCマンション住宅改装】平面図・展開図・透視図 第35回 【RCマンション住宅改装】プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD54		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方を見出しインテリアを考え、選択します。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	第1回 インテリアコーディネートとは？
	第2回 インテリアの構成要素（空間と物的要素）
	第3回 家具の種類 スケッチパース演習
	第4回 ファブリックス 質感、アクセント
	第5回 インテリアコーディネートのための色彩
	第6回 照明器具と配光性
	第7回 インテリアオーナメントとアクセサリ
	第8回 空間スケッチパース基本演習
	第9回 プレゼンテーションボード作成
	第10回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない。【参考資料 やさしいインテリアコーディネート（学芸出版社）スケッチパース インテリア編（秀和システム）】
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD55		
授業科目名	コーディネート演習Ⅲ		
授業時間数	120		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境、省エネルギーへの対応、安全、防犯など、住宅とそのインテリアに求められる社会的要求が高まる中、住まい手のニーズに応じて、生活の場としてのインテリア空間を適切にまとめ形づくるための知識や技術を理解、修得する。
授業計画	第1回 インテリアコーディネーターの誕生とその仕事
	第2～5回 インテリアの歴史（日本・西洋）
	第6～9回 インテリアコーディネーションの計画
	第10～13回 生活場面の構成手法
	第14～17回 インテリアエレメント（家具・造作物品）
	第18～22回 ファブリックス・インテリアオーナメント
	第23～24回 インテリアの構造、工法と仕上げ
	第25～28回 環境と設備 ショールーム見学
	第29～32回 法規・規格・制度 表現技法製図
	第33～36回 プレゼンテーション演習 基礎、平面図
	第37～40回 プレゼンテーション演習1 平面図・展開図
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下（インテリア産業協会）
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD56		
授業科目名	商業施設設計B		
授業時間数	105		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員が、その経験を生かして商業施設の計画、デザイン、設計について指導する。 異なる業種・業態における設計演習を行い、各施設において求められる事、可能性や有効活用を考察し、付加価値のある商空間を企画提案する。企画した商空間は、内装設計図の作成、及びプレゼンテーションを行い、商業施設における基本設計業務を理解する。
到達目標	商業施設についての考察力・企画力を養い、魅力ある商空間の提案力を培う。 計画内容の具現化にあたり、内装設計製図技能(基本意匠設計)の習得、プレゼンテーション技能の定着を目指す。
授業計画	第1～2回 第Ⅰ課題説明、条件設定、資料収集 第3～6回 企画・コンセプト立案、意匠計画策定 第7～14回 デザイン検討、内装設計図面の検討・作成 第15～22回 各設計図書の整合・修正、及び透視図・プレゼンテーション資料作成 第23～24回 第Ⅰ課題プレゼンテーション・講評 第25～26回 第Ⅱ課題説明、与条件調査・研究 第27～28回 企画・コンセプト立案、意匠計画策定 第29～31回 デザイン検討、内装設計図面の検討 第32～34回 内装設計図面の作成、及び透視図・プレゼンテーション資料作成 第35回 第Ⅱ課題プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各課題における作品評価点（70%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD57		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネートを経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方を見出しインテリアを考え、選択します。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	第1回 インテリアコーディネートとは？ 第2回 インテリアの構成要素（空間と物的要素） 第3回 家具の種類 スケッチパース演習 第4回 ファブリックス 質感、アクセント 第5回 インテリアコーディネートのための色彩 第6回 照明器具と配光性 第7回 インテリアオーナメントとアクセサリー 第8回 空間スケッチパース基本演習 第9回 プレゼンテーションボード作成 第10回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない。【参考資料 やさしいインテリアコーディネート（学芸出版社）スケッチパース インテリア編（秀和システム）】
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD58		
授業科目名	コーディネート演習Ⅲ		
授業時間数	120		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境、省エネルギーへの対応、安全、防犯など、住宅とそのインテリアに求められる社会的要求が高まる中、住まい手のニーズに応じて、生活の場としてのインテリア空間を適切にまとめ形づくるための知識や技術を理解、修得する。
授業計画	第1回 インテリアコーディネーターの誕生とその仕事
	第2～5回 インテリアの歴史（日本・西洋）
	第6～9回 インテリアコーディネーションの計画
	第10～13回 生活場面の構成手法
	第14～17回 インテリアエレメント（家具・造作部品）
	第18～22回 ファブリックス・インテリアオーナメント
	第23～24回 インテリアの構造、工法と仕上げ
	第25～28回 環境と設備 ショールーム見学
	第29～32回 法規・規格・制度 表現技法製図
	第33～36回 プレゼンテーション演習 基礎、平面図
	第37～40回 プレゼンテーション演習1 平面図・展開図
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下(インテリア産業協会)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD59		
授業科目名	建築設計B		
授業時間数	105		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。
到達目標	建築計画Ⅰで履修した内容を基に、各種建築物設計に必要な検討事項をリストアップし、設計条件として整理できる能力を身につける。複雑に絡み合う様々なプログラムを論理立てて整理し、秩序を持った空間提案ができる能力を身につける。高齢者等様々な人々の身体特性を理解し、建築が障害を作らぬよう配慮できる意識を身につける。建築と社会との関わりやその意義を理解する。
授業計画	第1回 課題説明(集合住宅)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第2,3回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第4,5回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第6,7回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第8,9,10回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第11回 プレゼンテーション・講評 第12回 課題説明(高齢者福祉施設)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第13,14回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第15,16回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第17,18回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第19,20,21回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第22回 プレゼンテーション・講評 第23回 課題説明(美術館)・資料収集・敷地環境等条件の整理 第24,25回 エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画) 第26,27,28回 エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第29,30,31回 エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討) 第32,33,34回 平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成 第35回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD60		
授業科目名	構造力学Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	－		

シラバス

授業内容	構造力学Ⅰで学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせて解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。
到達目標	基礎知識を利用した不静定構造物の応力計算方法を修得する。また、偏心荷重を受ける部材の応力を求めるなどの応用問題の解法を身につける。構造計画と構造計算のプロセスの概要を理解する。
授業計画	第1回 構造物の静定・不静定
	第2回 静定構造物の応力
	第3～4回 断面の性質
	第5～6回 応力度
	第7～8回 不静定構造物の応力
	第9～10回 構造設計
教科書	図解やさしい構造力学（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD61		
授業科目名	建築計画Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	—		

シラバス

授業内容	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム2回で構成し、5課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系2課題)を課す。
到達目標	与えられた課題敷地に対し、必要条件を的確に整理し、建築計画Ⅰで修得した計画手法を理解し、基本計画することができる。
授業計画	第1回 木造住居系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第2回 木造住居系課題(基本計画・設計図制作)
	第3回 RC造住居系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第4回 RC造住居系課題(基本計画・設計図制作)
	第5回 公共建築系課題(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第6回 公共建築系課題(基本計画・設計図制作)
	第7回 商業建築系課題A(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第8回 商業建築系課題A(基本計画・設計図制作)
	第9回 商業建築系課題B(要点整理・設計方針策定・エスキス)
	第10回 商業建築系課題B(基本計画・設計図制作)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD62		
授業科目名	建築環境工学		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計の仕事に従事していた教員が、その見識や経験を活かして講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。
到達目標	各単元ごとに基礎知識を習得した後にテストを行い、目標の達成度合いを確認する。特に熱環境と光環境については、熱移動の基本事項、温熱環境、日射・日照、採光、照明などについて説明し、建築物の室内および周辺環境を計画するための基礎知識を修得させる。
授業計画	第1回 建築環境の概要・気候
	第2～ 3回 伝熱と結露
	第4～ 5回 換気と通風
	第6～ 7回 日射・日照と採光
	第8回 照明と色彩
	第9回 音環境
	第10回 都市環境
教科書	初めての建築環境(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD63		
授業科目名	木構造計画演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等の実践的な演習の指導を行う。
到達目標	木構造の意匠と構造とのバランスを理解し、建築基準法に基づく耐力壁の配置や接合金物の選定についての知識・手法を習得する。
授業計画	第 1 回 [木質構法の特徴]
	第 2-3 回 [耐力壁のバランス]
	第 4-5 回 [地震力]
	第 6-7 回 [風圧力]
	第 8-9回 [軸組検討]
	第10回 [金物検討]
教科書	[図解]建築の構造と構法 <井上書院>
成績評価方法	課題<耐力壁のバランス・地震力・風圧力・金物選定>の検討成果と精度について採点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD64		
授業科目名	積算 I		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、建築数量積算基準に基づき、各工種ごとに材料算出方法を講義する。概要の解説を行った後に、電卓やスケールを用いて、教科書の図面及び仕様を確認しながら部材積算を行い、基礎手順を解説。工種ごとの単位や所要数量の違いを理解し、材料ごとに正確な拾い出しが行えるよう講義を行う。		
到達目標	工事費の構成及び工程別の積算の流れを理解する。建築材料を各工種ごとに正確な拾い出し作業ができる力を身につける。項目ごとに拾い出し単位の違いや、割増率の違いを理解する。適切に電卓やスケールを使用出来る。		
授業計画	第 1 回	積算の種類・数量計算の流れ	
	第 2 回	土工・地業の積算	
	第 3 回	鉄筋・型枠の積算	
	第 4 回	コンクリート数量の積算	
	第 5 回	鉄骨の積算	
	第 6 回	木造の積算	
	第 7 回	新建材の積算	
	第 8 回	左官・タイルの積算	
	第 9 回	塗装・建具の積算	
	第 1 0 回	板金・防水・雑工事の積算	
教科書	初めての建築積算（学芸出版社）		
成績評価方法	定期試験（８０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（２０％）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD65		
授業科目名	施工Ⅱ		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、施工監理者として必要な専門的工事詳細を解説する。具体的には、実際の現場に応じた工程表の作成や日数計算・品質管理の考え方・各工種別に専用機械を用いた施工納まりの詳細・重複する工事の施工手順の要点などを講義。さらに、地積測量方法を学び、測量や標高の基本計算が行えるよう理解を深める。		
到達目標	施工計画書及び設計図書を確認しながら工程表を作成することができる。基本施工を理解した上で、さらに各工種ごとの専門的な施工詳細と手順を修得する。また、各測量方法を理解し、標高や平板測量の移動量などの基本計算ができる。		
授業計画	第 1 回	計画	
	第 2 回	工程表作成演習	
	第 3 回	仮設工事	
	第 4 回	土工事・地業工事	
	第 5 回	地盤調査・杭工事・地盤改良工事	
	第 6 回	鉄筋工事	
	第 7 回	型枠工事	
	第 8 回	溶接工事	
	第 9 回	コンクリート工事・ALC工事	
	第 1 0 回	枠組壁工法・造作工事	
	第 1 1 回	防水工事	
	第 1 2 回	設備工事	
	第 1 3 回	金属工事	
	第 1 4 回	施工機械器具	
	第 1 5 回	測量	
教科書	専門士課程 建築施工（学芸出版社）		
成績評価方法	定期試験（８０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（２０％）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD66		
授業科目名	建築設備Ⅱ		
授業時間数	45		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	設備設計事務所での勤務実績がある者が建築設備の設計図作成方法を実務を通して説く。又、設備図の読み取り方を説く。 給排水設備、空調換気設備、電気設備の設計図作成の流れや作成する際の注意点を学ぶ。
到達目標	設備図を読み取り、工事内容の情報を正確に得ることが出来るようになる。簡易な設備図を作成することが出来るようになる。
授業計画	第1回 設備設計図の役割と、見やすく読みやすい設計図を学ぶ
	第2回 配管図作成の為の約束事を学ぶ・ライフラインを学ぶ
	第3回 住宅の給排水図作成（課題①）提出物
	第4回 住宅の給排水図作成（課題①）提出物
	第5回 公衆便所の給排水図作成（課題②）提出物
	第6回 公衆便所の給排水図作成（課題②）提出物
	第7回 住宅の空調換気図作成（課題③）提出物
	第8回 住宅の空調換気図作成（課題③）提出物
	第9回 空調ダクト図作成（課題④）提出物
	第10回 排煙ダクト図作成（課題⑤）提出物
	第11回 特記仕様書を学ぶ 機器一覧表を学ぶ
	第12回 系統図作成 詳細図作成
	第13回 電気設備図の読み取り方を学ぶ
	第14回 電気設備図の読み取り方を学ぶ
	第15回 設計図と施工図の違いを学ぶ
教科書	オーム社 やさしい建築設備図面の見方・かき方
成績評価方法	課題①～⑤の採点により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD67		
授業科目名	積算Ⅱ		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、実行予算書の作成や内訳明細書作成等の業務演習の授業を行う。実務同様にエクセルを使用してそれぞれ雛形原本を作成、各項目の割増率や利益掛け率の設定を行い、設計図書や仕様書を基に拾い出し数量をデータ入力し、積算書類を完成させる。また、積算業務と密接に関係する発注書や請書の基礎知識、粗利率や施主提示額の計算方法など、資金に関係する全体の流れも把握し、工務積算として即戦力となる演習を行う。		
到達目標	エクセルで実行予算書及び内訳明細書の雛形を作成し、各項目に関数入力ができ、適切な時間内に拾い出し及び数量打ち込み作業を行うことができる。原価率・粗利率を理解し、適切な提示金額計算方法を習得できている。新建材及び羽柄材の拾い出し業務ができる。予算書に加え、発注書及び請書や契約書の基礎知識を理解できる。		
授業計画	第１回	業務の要点・実行予算書と内訳明細書概要・エクセル雛形作成	
	第２回	関数入力・積算見積用図面記載・入札依頼と拾い出しの区別・発注や請書	
	第３回	基礎伏図・土台伏図・プレカット図を確認した数量拾い	
	第４回	入札見積書の整理・開口部建具チェックバック・部材アクセサリ類拾い出し	
	第５回	新建材明細の拾い出し・羽柄材の数量拾い	
	第６回	実行予算書の入力打ち込み	
	第７回	実行予算書の入力完成・チェックバック	
	第８回	内訳明細書の入力打ち込み	
	第９回	内訳明細書の入力完成・チェックバック	
	第１０回	最終演習課題	
	教科書	初めての建築積算（学芸出版社）	
成績評価方法	授業の課題演習（４０％）最終回課題演習（４０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（２０％）により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD68		
授業科目名	卒業制作A		
授業時間数	345		
必修・選択の別	選択		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。
到達目標	・これまでの建築やインテリアデザイン等の空間デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。
授業計画	前期（第1週～第15週） 第1週 卒業制作概要説明及び制作スケジュールの設定 第2週～4週 事前調査・制作テーマの方向性の検討 第5週～8週 本調査・制作テーマ・コンセプトの決定 第9週～14週 エスキス（スケッチ・模型等による検討） 第15週 中間発表・講評 後期（第16週～第30週） 第16週～22週 設計図書作成 第23週～26週 プレゼンボード（図面・パース含）作成 第27週～29週 模型作成 第30週 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	卒業制作における作品評価点（70%）、プレゼンテーション（10%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD69		
授業科目名	卒業制作A		
授業時間数	345		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。
到達目標	・これまでの建築やインテリアデザイン等の空間デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。
授業計画	前期（第1週～第15週） 第1週 卒業制作概要説明及び制作スケジュールの設定 第2週～4週 事前調査・制作テーマの方向性の検討 第5週～8週 本調査・制作テーマ・コンセプトの決定 第9週～14週 エスキス（スケッチ・模型等による検討） 第15週 中間発表・講評 後期（第16週～第30週） 第16週～22週 設計図書作成 第23週～26週 プレゼンボード（図面・パース含）作成 第27週～29週 模型作成 第30週 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	卒業制作における作品評価点（70%）、プレゼンテーション（10%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD70		
授業科目名	卒業制作A		
授業時間数	345		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が設定されたテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。
到達目標	・これまでの建築やインテリアデザイン等の空間デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。
授業計画	前期（第1週～第15週） 第1週 卒業制作概要説明及び制作スケジュールの設定 第2週～4週 事前調査・制作テーマの方向性の検討 第5週～8週 本調査・制作テーマ・コンセプトの決定 第9週～14週 エスキス（スケッチ・模型等による検討） 第15週 中間発表・講評 後期（第16週～第30週） 第16週～22週 設計図書作成 第23週～26週 プレゼンボード（図面・パース含）作成 第27週～29週 模型作成 第30週 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	卒業制作における作品評価点（70%）、プレゼンテーション（10%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2025SD71		
授業科目名	ビジネススキル演習		
授業時間数	30		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。
到達目標	Microsoft officeアプリケーションの操作・応用方法を修得し、現代社会で必須スキルとなっているビジネス文書の作成やデータ処理能力等を身につける。効率良く仕事を行う上で役立つコンピュータの知識を身につけ、様々な文書や資料の作成に活かせる能力を培う。
授業計画	第１回 Word・Exel・PowerPointの基本操作、Wordの基本１ 第２回 Wordの基本２ 第３回 Wordの応用１ 第４回 Wordの応用２ 第５回 Excelの基本１ 第６回 Excelの基本２ 第７回 Excelの応用１ 第８回 Excelの応用２ 第９回 PowerPointの基本１ 第１０回 PowerPointの基本２
教科書	今すぐ使えるかんたんWord&Excel &PowerPoint2019（株式会社技術評論社）
成績評価方法	各提出課題（５０％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（５０％）により評価する。
備考	